

6. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北陸)	良く なっている	スーパー（店 長）	販売量の動き	・会社が創業50周年にあたる節目の月が来月に到来することに伴い、様々な客を入れる対策を行っていることにより、販売量が増えているという状況にある。
		観光型旅館（ス タッフ）	来客数の動き	・総売上は前年同月比119%、宿泊人数は同108%、宿泊単価は同104%であった。なお、15名以上の団体客は同2.6%減少したが、14名以下の個人客については同12%増加となった。また、提携している大手インターネットサイト及び企画商品による販売が好調であった。
		住宅販売会社 （従業員）	販売量の動き	・現行の消費税率が適用される請負工事契約の締結時期の影響により、9月末までの契約を要望する客が大半であり、新築、リフォーム工事の商談及び受注は大幅に増加した。
やや良く なっている		一般小売店〔精 肉〕（店長）	来客数の動き	・客は活気付いて、来客数は確実に増加していると感じられる。
		百貨店（売場主 任）	単価の動き	・消費税率引上げを意識しはじめているのか、寝具などの住関連商品群においてもやや価格設定が高いものに動きが出てきている。
		スーパー（統 括）	来客数の動き	・3か月前と比較すると、高額なものでも価値があれば動くようになってきている。例を挙げると、A5ランクやA4ランクの和牛及び地物の白身魚や、野菜や果物も含めて、物と価値が合えば多少高額なものでも、以前よりも動いている。
		家電量販店（管 理本部）	単価の動き	・家電小売業界においては、地上デジタル放送切替後の不振が長く続いており、現在も厳しい状況であることには変わりはない。その一方で、商品単価は4KテレビやIH炊飯器などの一部で上がってきており、全体としては3か月前の状況よりやや良くなっている。
		乗用車販売店 （経営者）	販売量の動き	・新型車を中心に注文が多くなっている。
		乗用車販売店 （経理担当）	販売量の動き	・9月の車の販売量は前年同月比110%となり、今年6月の当該販売量は同75%であったため、3か月前と比較すると上向いている。
		一般レストラン （スタッフ）	来客数の動き	・来客数については前年同月を多少上回っているような状況が続いている。なお、全体としては3か月前の状況よりやや良くなっている。
		旅行代理店（従 業員）	お客様の様子	・メリハリ消費に代表されるように、高額商品にも動きがある。
		通信会社（職 員）	競争相手の様子	・2020年の東京五輪の開催が決まり、目先の不安は払拭されてはいないが、開催までの景気底上げに対する期待が少なからずあることは間違いなく、通信業界においても全体的に活性化すると考えている。なお、ある携帯電話会社による新たなメーカーの取扱による発売が大きな反響となったことも当該状況の表面化であり、消費者の購買意欲の上昇傾向が感じられる。
		通信会社（店舗 統括）	来客数の動き	・春先と比較すると8～9月は来客数が増加している。新商品発表前にもかかわらず、9月前半の来客数は好調であった。
		住宅販売会社 （従業員）	来客数の動き	・展示場の来場者数が目立って減ってきており、今後の商談件数が低下傾向にあることより、今までの伸びは期待できなくなってくると予想しているが、消費税率引上げに伴う恩恵については実質9月末であることから、受注は順調に推移している。
		住宅販売会社 （従業員）	販売量の動き	・消費税率引上げの駆け込み受注が顕著になり、契約が前年同月比2割以上上昇した。前月が少なかった分、今月が増えたことも要因と想定している。
住宅販売会社 （従業員）	お客様の様子	・消費税率引上げ前の駆け込み需要により、前年同月と比較すると売上が約2割増えている。		
変わらない		商店街（代表 者）	お客様の様子	・残暑が厳しいためか秋物の動きがまだ鈍く購買にはつながらない状況にあるが、全体としては3か月前の状況とほとんど変わらない。
		商店街（代表 者）	来客数の動き	・実際には予想以下の豪雨であったにもかかわらず、外出を抑制する呼び掛けなどの早期の警戒情報により、入客が少ない日が多かったように感じている。なお、全体としては3か月前の状況とほとんど変わらない。

一般小売店〔事務用品〕(店員)	お客様の様子	・消費税率引上げが予想されるなか、客からの駆け込み需要を期待するが、受注も当該見込みも前月とほとんど変わらない。
百貨店(営業担当)	お客様の様子	・気温が30度を超える日が前年同月より少なかったため、秋物の動きが予定よりも良かった。カシミア混素材やウール混素材の商材も動き出している。なお、全体としては3か月前の状況とほとんど変わらない。
百貨店(一般顧客訪問担当)	販売量の動き	・アベノミクス効果により高単価の商品の動きが一部で良いものの、全体的には景気が良くなっているとはいえない状況にある。
スーパー(店長)	単価の動き	・9月に入り、台風の影響により猛暑の夏から秋へと一気に季節変わりしたためか、秋物商材の動きが今一つである。買上単価も以前と変わらず、厳しい状況が続いている。
スーパー(総務担当)	来客数の動き	・9月は中旬以降も気温が高く来客数が伸び悩んだことにより、秋物商品が売れない状況にある。気温が下がり必要にならないと購入しないように見受けられ、3か月前と状況はほとんど変わらない。
スーパー(総務担当)	販売量の動き	・一部の商品の値上がりが発生したが生活必需品であることより、販売点数や買上率にはあまり影響が無い状況にある。
コンビニ(店舗管理)	競争相手の様子	・ドラッグストアが軒並み青果部門や日配品部門に力を入れ、超安売りを行っている。その影響を受けて、ほかの部門では健闘している店舗においても、青果部門及び日配品部門の前年同月比割れが激しい。なお、全体としては3か月前の状況とほとんど変わらない。
衣料品専門店(経営者)	お客様の様子	・天候不順もあり、衣料品の前年同月確保が厳しい状況が続いている。なお、客からは給料が増えたなどの声はほとんど聞かれない。
衣料品専門店(経営者)	販売量の動き	・テレビや新聞などの情報が正しいとすればもう少し変化を感じるのではないかと思うが、客の顔つきも苦虫をかむとまでとはいわないがにこやかではなく、特段の変化は無い。
家電量販店(店長)	販売量の動き	・9月前半は残暑によりエアコンなどの夏物商材が売れたが、それ以外の商材については全く振るわなかった。なお、全体としては3か月前の状況とほとんど変わらない。
乗用車販売店(役員)	販売量の動き	・エコカー補助金の恩恵は無いが新型車効果があり、販売台数は多少減少しているが、売上金額は前年同月比横ばいであり、また、収益ベースでは好調に推移している。なお、全体としては3か月前の状況とほとんど変わらない。
自動車備品販売店(従業員)	お客様の様子	・依然、来客数及び単価とも低迷しており、車両販売やガソリン給油量も落ちてきている。また、スタッドレス販売も例年同月と比べて動きが悪い。全体としては3か月前の状況とほとんど変わらない。
住関連専門店(店長)	お客様の様子	・消費税率引上げによる動きはみられるものの、かなり無理をしている客も多い。なお、全体としては3か月前の状況とほとんど変わらない。現状は一時的な動きはあるが、当該税率引上げ後の動きを懸念している。
その他専門店〔酒〕(経営者)	来客数の動き	・将来的に消費税率の引上げが実施されると想定しており、他店においては駆け込み需要などにより売上が増加している所もあるのかもしれないが、当店においてはそのような状況は全くみられず、景気の悪い状況が10数年間続いているという状態である。
その他専門店〔医薬品〕(総務担当)	来客数の動き	・9月中旬から暑さが和らぎ、ペットボトルなどの飲料の動きが落ち込んできている。また、医薬品については、かゆみ止めなどの皮膚薬の落ち込みが目立ってきている。一方、化粧品は中価格帯の商品は厳しいが、引き続き低価格帯を中心とした動きとなっている。全体としては3か月前の状況とほとんど変わらない。
その他小売〔ショッピングセンター〕(統括)	販売量の動き	・来客者の伸びは堅調で前年同月を上回るペースで推移しており、また、単価についても当該月よりも多少上回っているが、一客の買上点数が当該月を下回っている。なお、必需品の購入により来店しても、そのほかの関連商品の購買まではつなげていないのが現状である。全体としては3か月前の状況とほとんど変わらない。

高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・個人客の利用については例年の10%ほど単価が高く推移しているが、飲料の売上が多い会社関係の接待や会合が少なく、全体の売上の増加までには至っていない。	
観光型旅館(経営者)	来客数の動き	・連休などにおいては個人客の予約はあったが、受注型企画旅行団体や募集型企画旅行団体の来客数が悪かった。全体としては3か月前の状況とほとんど変わらない。	
タクシー運転手	来客数の動き	・夏休みに旅行や行楽によりお金を使ったためであるのか、猛暑による夏の疲れが出ているためであるのかは分かりかねるが、夜の街へ出掛ける人が少なくなっている。ただし、全体としては3か月前の状況とほとんど変わらない。	
タクシー運転手	お客様の様子	・営業で県内に入ってくる客が増加していると感じているが、全体としては3か月前の状況とほとんど変わらない。	
通信会社(役員)	お客様の様子	・新規加入件数はあまり変わらず低位で推移しており、また解約件数についても特段変わった様子は無い。	
その他レジャー施設(職員)	お客様の様子	・会員数が増えていない。	
美容室(経営者)	来客数の動き	・半年ほど前から、来客数が前年同月割れをする月が続いている。同業者も同じ傾向にある。	
やや悪くなっている	一般小売店[書籍](従業員)	お客様の様子	・消費税率の引上げが目前に迫り、余計なものを買わないという様子が目立っている。
	百貨店(営業担当)	お客様の様子	・様々なものの値上げや消費税率の引上げが控えており、それに対して、家庭においてパンを米から作れるなどといった商品提案を考慮した陳列を売場において実施している。なお、このような商品提案に対して客は関心を持つが、購入するまでには至らないということに象徴されるように、高額品なども同様の状況であり、最近では客の購買に対する意欲がかなり減退していると感じている。
	百貨店(営業担当)	お客様の様子	・バーゲンが終わっているにもかかわらず、今月に入ってから値段の安い今すぐ使える物を求めているように感じる。値段は安いがまとめ買いということもなく単品買いであり、また、1人当たりの接客時間も長く慎重に選ぶ傾向にある。
	コンビニ(経営者)	販売量の動き	・客単価は2ポイント程度の下落が続いており、また、来客数は1割以上減少しているため、3か月前よりやや悪くなっている。
	コンビニ(経営者)	販売量の動き	・2か月ほど前に近隣に競合店が出店した。その影響を受けて、3か月前と比較すると状況は悪化している。売上が前年同月比90%を割り込んでいる状況にある。
	コンビニ(店長)	販売量の動き	・3月に全面改装を行ったことにより店舗状況は前年同月より良い状況であるにもかかわらず、売上についてはこれまでも前年同月割れをしていたが、今回初めて前年同月比を約5%下回っている。なお、新たに競合店ができたわけでもなく、既存の競合店における来客数も増加していないようであり、常連客の来店頻度が減ったように感じている。
	衣料品専門店(経営者)	お客様の様子	・円安による物価の値上げや消費税率引上げに対する不安が消費者の購買意欲を不安定なものにしている。
	衣料品専門店(総括)	販売量の動き	・気温が低下し始め、秋物商材が次第に売れ出す時期であるが、今期は販売につながっていない。
	乗用車販売店(従業員)	販売量の動き	・車種によりばらつきはあるが、会社全体においては新車及び中古車ともに当初の計画が未達成であり、また、サービスの売上についても悪化傾向にある。
	その他専門店[ガソリンスタンド](経営者)	販売量の動き	・単価が上昇した場合、販売量が減少傾向にある。なお、消耗品については単価が上昇すると、そのほかの商品の購入に抑制傾向が出てくるため、現在は少し景気が悪くなったと考えている。
	スナック(経営者)	来客数の動き	・客同士の会話のなかでは、株で相当な利益を得たなど、地に足が着かない収入の話により一部では盛り上がりつつある感じがしている。一方、個人商店経営者からは、相変わらず商売的には良い話が聞かれない。全体としては3か月前よりやや悪くなっていると認識している。
	都市型ホテル(スタッフ)	販売量の動き	・宿泊、レストラン及び宴会の各部門ともに売上が前年同月比微減しており、動きは低迷している。

	都市型ホテル (スタッフ)	販売量の動き	・9月の売上高は、前年同月を下回った8月より、宿泊部門、宴会部門及びレストラン部門ともに総じて悪い。北陸新幹線開通を目前にして、学会などは当該開通後に設定されていることにより、宿泊部門や宴会部門に影響が出ている。なお、レストラン部門のランチ時間帯は前年並みであるが、夜の時間帯が低迷している。
	旅行代理店(従業員)	お客様の様子	・節約意識がより厳しくなっており、ムードは良くなってきてはいるが実際の消費には結び付いていない。
	通信会社(役員)	販売量の動き	・インターネット契約獲得をめぐる大手通信事業者との競合は一層激化している。競合により市場が拡大するのは望ましい姿であるが、その実感はあまり無い。
	通信会社(営業担当)	来客数の動き	・来客数についてはあるメーカー商品の発売に伴い一時は増えたが、その後は当店は取扱店ではないことにより問い合わせのみがあり、全体的な来客数が減ってきている。
	テーマパーク (職員)	来客数の動き	・最近の集中豪雨など天候不順による影響も大きいですが、国内の団体旅行客の動きが3~4か月前と比べると鈍く、前年同月比1割近い減少となっている。
	競輪場(職員)	販売量の動き	・3か月前と比べ、1日当たりの平均売上額が12%減少している。
	悪くなっている	-	-
企業 動向 関連 (北陸)	良くなっている	一般機械器具製造業(総務担当)	受注量や販売量の動き ・国内においては「円高・エネルギー制約対策のための先端設備等投資促進事業費補助金」が出たにもかかわらず、直接受注には結び付いていない状況であるが、欧米からの受注が順調である。全体としては3か月前の状況より良くなっている。
	やや良くなっている	繊維工業(経営者)	受注量や販売量の動き ・原材料高でコスト面が非常に厳しい状況にもかかわらず、目先の受注は適切な水準にある。全体としては3か月前の状況よりやや良くなっている。
		プラスチック製品製造業(企画担当)	受注量や販売量の動き ・消費税率引上げの影響が前月よりも出てきている状況により、売上が増加してきている。
	変わらない	建設業(経営者)	受注量や販売量の動き ・デフレ脱却のための第1四半期における公共工事の発注は期待外れに終わったが、8~9月にかけて地方自治体からの発注が増えた。技術者不足や交通誘導員の確保難などの課題はあるが、仕事があった方がよいことは間違いないことである。
		建設業(総務担当)	受注量や販売量の動き ・人員に限りがあり、見積業務及び施工能力も手一杯の状況であり、余力が無くなってきているが、消費税率の引上げ前の見積依頼が増えている。
		輸送業(配車担当)	受注量や販売量の動き ・来年度の消費税率が8%へ引き上げられると想定されるなかで、特に建築関連を中心とした一部の企業における荷動きが活発になっている。
	悪くなっている	金融業(融資担当)	取引先の様子 ・猛暑の影響により良かった業界と悪かった業界があるが、消費税率引上げに伴う駆け込み需要的な要素や2020年開催の東京オリンピックによる心理的要因から、相対としてやや良くなっている。
		金融業(融資担当)	取引先の様子 ・輸出企業である取引先の生産体制のフル操業が続いている。
	変わらない	新聞販売店[広告](従業員)	受注量や販売量の動き ・6月より3か月連続で前年同月比を上回っている。9月も週内で売上が最も低い月曜日で終わるにもかかわらず、同100%前後で落ち着きそうである。全体としては3か月前の状況よりやや良くなっている。
		司法書士	それ以外 ・不動産登記事件の多発が原因であるのか、登記や登記識別情報に関する証明書発行に時間が掛かっている。なお、全体としては3か月前の状況よりやや良くなっている。
食料品製造業(役員)		受注量や販売量の動き ・直近3か月では商品構成が秋向けの商材に傾注しはじめているが、受注量や販売量の変化がほとんど無い状況にある。	
繊維工業(経営者)		受注量や販売量の動き ・コストの上昇のみが先行しており収益面は苦しく、また、受注については期待感はあるものの、前年同月並みとなっており上向いてきていない。なお、全体としては3か月前の状況とほとんど変わらない。	
悪くなっている	化学工業(総務担当)	受注量や販売量の動き ・当社の売上は、2~3か月間横ばい状況である。	
	精密機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き ・開発案件については数件取組中であるが、現在の生産量自体は3か月前とあまり変わっていない。	

	輸送業（配車担当）	受注価格や販売価格の動き	・売上は前年同月並みで変わらないが、軽油が高くなっているため利益を圧迫している。ただし、全体としては3か月前の状況とほとんど変わらない。	
	税理士（所長）	受注量や販売量の動き	・海外向け機械製造などの会社については、為替が1ドル100円程度で定着している状況のなかにおいてもあまり輸出が伸びず、ほかの海外向けの輸出関連企業についても同様の傾向にある。ただし、国内製造の医薬品関係などについては、国内の設備投資が堅調のためか動きは順調に推移している。全体としては3か月前の状況とほとんど変わらない。	
	やや悪くなっている	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・同業者関係の話では動いているという話と少なくなってきたという話が半々であり、3か月前よりやや悪くなっている。
	悪くなっている	-	-	-
雇用関連	良くなっている	-	-	-
(北陸)	やや良くなっている	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・求人数は比較的安定してきている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人は前年同月に比べて増加傾向が続いている。非正規求人が主となっているが、正社員の求人も少しずつ増加してきており、3か月前の状況よりやや良くなっている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年同月比で増加傾向にあり、製造業においても微増となっている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・全体的に求人数が増加傾向にある。
		民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・対応可能な派遣登録者の絶対数が不足していることにより成約数は伸びていないが、派遣の受注件数が多少増加した。
	変わらない	人材派遣会社（役員）	求人数の動き	・専門職の求人は多いが、スキルのある人材が少なくマッチングが厳しい状態である。また、要件数は伸びておらず、3か月前の状況とほとんど変わらない。
		人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・求人数の増加に伴い求職者がより良い雇用環境の職種を選ぶようになったことにより、求人募集広告を出しても応募者が少なくマッチングの割合が低い傾向にある。全体としては3か月前の状況とほとんど変わらない。
		求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	・1回発行当たりの求人件数の変動が、3か月前と比べてほとんど無い。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・9月の求人売上は、前年同月比2%程度の増加であった。
		学校〔大学〕（就職担当）	採用者数の動き	・工学系学生を採用する企業が増えているが、全体としては3か月前の状況とほとんど変わらない。
	やや悪くなっている	-	-	-
	悪くなっている	-	-	-